

P・I・A シート

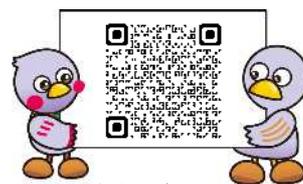
～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～
小学校 生活 編 ① 概要

校種・学年	小学校・1学年	教科等	生活
単元名	たのしいあきいっぱい		
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の自然と関わる活動を通して、自然の様子や季節の変化、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることのおもしろさ、自然の不思議さに気付いている。 〈知識及び技能の基礎〉 ・秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付けたり、身近な自然を使って遊びや遊びに使う物を工夫したりして作っている。 〈思考力、判断力、表現力等の基礎〉 ・秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然を取り入れ、みんなと楽しみながら遊びを創り出し、学級や自分の生活を楽しくしようとしている。 〈学びに向かう力、人間性等〉 		
本時のねらい	園児と一緒に遊ぶ活動のルールや活動の仕方、道具を工夫することで遊びが楽しくなることに気づき、よい方法を考えることができるようにする。		
本時の評価規準	園児と一緒に遊ぶ活動のルールや活動の仕方、遊び道具を工夫すると遊びが楽しくなることに気づき、よりよい方法を考えている。【思・判・表】 (行動観察・作品)		

事例の概要(見どころ)

- ・友達や園児、社会や自然とのかかわりの中で、体験活動と表現活動とが豊かに行き来する相互作用を重視しており、新たな気づきやよりよい考えを引き出す授業を展開しています。
- ・ICT端末を活用して、学習対象への興味や関心を喚起し、記録した情報をもとに伝え合いを充実させたり、自らの活動を客観的に振り返り、活動のよさに気付かせたりする等、気づきの質を高める指導の工夫をしています。

発行：令和7年3月
埼玉県教育局南部教育事務所
<https://www.pref.saitama.lg.jp/g2201/gakkou/pia.html>



その他のP・I・Aシートはこちら ↑

P・I・A シート

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～
 小学校 生活 編 ② 指導展開

- 目標 園児と一緒に遊ぶ活動のルールや活動の仕方、道具を工夫することで遊びが楽しくなることに気付き、よりよい方法を考えることができる。【思考・判断・表現】
- 準備 大型モニター、I C T端末、ワークシート
- 展開 (18/21 時間)

児童の活動 ・ 意識	○支援 ●評価
1 前時の活動を振り返り、本時の課題を確認する。	○前時のお店屋さんごっこの振り返りから、よかった点・おもしろかった点を紹介し合い、それらを称賛することで児童の意欲を高める。 ○前時の振り返りから、改良が必要な意見を紹介し、困った点やうまくいかなかった点を改良してよりよい遊びを考える必要があることを確認する。
グループで話し合いをして、遊びをパワーアップさせよう。	
2 本時の活動を確認する。	○なぜ改良（パワーアップ）するのかを確認する。 ○活動の見通しがもてるように、掲示物等により確認できるようにする。
💡授業改善の視点①💡 ・ 前時までの児童一人一人の気付きや思いや願いを生かし、児童が「やってみたい」という意欲や主体性を高める学習活動を展開することが大切です。	
3 意見カードを見て、グループで改良点（課題）を決める。	○意見カードを一覧にし、グループで何が課題かを相談できるようにする。 ○改良点として、「おもちゃ・活動のおもしろさを伝える（楽しみやすさ）」「安全に遊ぶために（耐久性・安全面）」という視点をもたせ、グループでの改良点を焦点化できるようにする。 ○以下について児童の考えをもとに視点を整理する。 (1) おもしろさ…「なかなかできない（うまくいかない）子にはどうするか」「ルールは難しくはないか」等 (2) 耐久性・安全面…「使っていて壊れそうなどころはないか」「使う道具は（使う子や周りの子にとって）危なくはないか」等 ○課題が決められない場合は、「意見カードに多く書いてあったものは何か（課題の確認）」「他のお店でいいなあと思ったことはないか」「みんながお客さんだったら、〇〇だったらもっと楽しめるのになあということはないか」等の言葉がけをし、改良点を焦点化する。
4 改良点（課題）を解決する方法を個人で考える。	○どんな道具を使うとよいのかだけでなく、なぜそれがよいのかなどの理由を考えたり説明させたりしながら根拠をもたせ、グループでの話し合いに参加できるようにする。 ○作ったおもちゃやお店の写真をI C T端末に保存しておき、いつでも確認できるようにするとともに、端末に記入することで自分やグループの考えを明確にできるようにする。 ●園児と一緒に遊ぶ活動のルールや活動の仕方、遊び道具を工夫すると遊びが楽しくなることに気付き、よりよい方法を考えている。 【思・判・表】（行動観察・作品）
💡授業改善の視点②💡 ・ 具体的な活動や体験の中で感じたり考えたりしている児童の姿を丁寧に見取り、働きかけ、活動の充実につなげることが大切です。	



I C T端末に保存された、児童が入力したシートなどを活用し、本時の学習活動に生かしています。

5 個人で考えた改良方法をグループで話し合う。

- ・コースの道はばを広くしてみたらどうかな。
- ・ころがすきよりをかえたらどうかな。
- ・点数せいにして、入ったところの合計にしたらどうかな。

6 遊びを改善する。

- ・もっとせつ明を分かりやすくするために、動画をさつえいしたらどうかな。
- ・いっしょに作って楽しんでもらうのはどうかな。

試したり見付けたりしながら気付いたことを伝え合い、遊びの内容や方法をよりよいものに改良しています。



- 掲示物を使いながら、あらためて話の聞き方を確認する。
 - ・顔を見て ・頷いて ・否定をしない ・質問する
 - 自分の改善点に取り入れたいことはないかという視点で友達の発表を聞くようにする。
 - 発表する児童の学習用端末を見ながら話を聞き、友達の改良点が視覚的にも理解できるようにする。
 - 具体的にどの部分を改良するのか分かるように、実物を使って説明させる。
 - グループの発表の中で、いいなあ（試してみたいな）と思うものを1つ決めて、この後活動することを伝える。
- 同じ班の友達が作った物も試し、互いのよいところを共有できるようにする。
- 改良していく過程で、「○○するともっといいな」「やっぱり△△なのは、難しいな」など新たな考えが生まれた場合は、既に考えたものと異なってもよいことを伝える。その際、振り返りシートに、その旨を書くことを伝える。
- 《安全面の配慮（他教科領域でも指導助言）》
- ・児童同士交錯しないよう、材料を取りに行く際の順路と留意点を確認すること、「道具の使い方の掲示物」や「○○の作り方の本」に触れやすい場所に用意したり、調べたいことを学習用端末を用いて自席で調べられるようにしたりする。
 - ・道具を使う場合は、一人で、同じ方向を向いて作業する。
 - ・おもちゃを試したい場合は、「実験室」として隣接する教室を使用する。
 - ・安全に片付けをすることができるように、道具・材料の片付け場所を明確にする。

📍授業改善の視点③📍

試行錯誤や繰り返す活動を設定したり、伝え合い交流する場を工夫したり、振り返り表現する機会を設けたりして、一人一人の気づきを質的に高めることが大切です。

7 本時の活動を振り返るとともに、次時の活動の見通しをもつ。

- 振り返りシートの記入が終わった児童は、今日のおもちゃを撮影し学習でどのように自分の考えや作品が変わったのか積み重ねていく。
- 「どのような工夫や改善をしたら、より○○になったのか」を振り返らせ、全体で共有することで達成感や満足感を味わわせる。
- 次回は、同じグループの友達の改良を試してみたり、お店がどのようにすればよいのかを考えたりすることを伝え、期待感を高める。

📍授業改善の視点④📍

評価を行うに当たり、質的な面からとらえられるように、行動観察や作品・発言分析等を行ったり、児童自身による自己評価や児童相互の評価、ゲストティーチャーからの情報等、様々な立場からの評価資料を収集したりすることで、児童の姿を多面的に評価することが大切です。